

北海道 公立高校の入試制度

【2021年度版】

選抜概要

- 北海道の公立高校入試は推薦選抜と一般選抜の2回あります。

	出願期間	志望変更期間	入試日	合格発表日
推薦選抜	1/19(火)～22(金)	—	2/10(木)	2/18(木)まで
一般選抜	1/19(火)～22(金)	1/27(水)～2/2(火)	3/3(水)	3/16(火)
2次募集	3/23(火)・24(水)	—	一般選抜の結果を元に選抜	3/26(金)まで

- 出願は、原則1校1学科に限ります。

ただし、農業・工業・商業に関する学科または水産に関する学科を第一志望とする場合、同一課程の同一大学科内の他の学科を第2志望とすることが出来ます。

また、一般選抜では、普通科の他に理科・数学に関する学科、体育に関する学科、外国語に関する学科を設置している場合、そのいずれかを第2志望とすることが出来ます。

- 合格者数が募集人員に満たない場合や、合格者の追加をしてもなお入学予定者数が募集人員に満たない際には、2次募集が行われます。この場合は、新たな学力検査等を実施せず一般選抜の結果を元に選抜を行うこととなります。

- 19の学区に分かれており、普通科への出願は原則、居住区のみになります。普通科以外の学科は道内全域で出願可能です。

推薦選抜

- 動機及び理由が明確である者、当該学科に対する適性、興味・関心及び学習意欲を有する者が対象です。推薦選抜の実施は各学校により決定されます。

- 推薦による入学者の範囲は学校・学科ごとに決定されます。

- ・普通科…募集人員の20%程度（ただし、募集人員が120名以下の場合は30%程度）
- ・その他の学科…募集人員の50%程度
- ・農業・水産に関する学科…募集人員の範囲内

- 選抜資料

①調査書・推薦書等…各教科学習の記録（評定）は1～3年の9科（5段階評価）対象
(1・2年9教科×2)+(3年9教科×3)=315点満点

②面接

③学校採択による検査…英語の聞き取りテスト、英語による問答、実技、作文
(各学校の判断によりひとつまたは複数実施)

④自己アピール文(各学校の判断により出願時に提出)

上記の資料を総合的に評価し合格者を選考します。

一般選抜①

●一般選抜は各学校・学科等の特色に配慮しつつ、能力・適性等を判定します。
 学力検査・調査書（内申点）に加え、面接・実技・作文等を実施する場合はそれらの資料を総合的に評価して選考を行います。

●選抜資料

①学力検査…国語・数学・社会・理科・英語の5科（各45分・各60点）

・国・数・英の学力検査においては、全道同一問題実施校と各学校の裁量により出題内容を変更する学校裁量問題実施校があります。

※2022年度入試より学校裁量問題を廃止、全道同一問題(5科 各50分・各100点)に変更

・学校・学科により特定の教科に傾斜配点が行われます。

傾斜配点を行う教科1～3教科、得点の倍率1.5～2倍（総得点を300点満点に換算）

②調査書…各教科学習の記録（評定）は、1～3年の9科（5段階評価）が対象
 (1・2年9教科×2)+(3年9教科×3)=315点満点

※個人調査書重視の選抜で、他のどの項目が重視されるかは各学校の判断

③学校採択による検査…面接・実技・作文など

一般選抜②

●選抜方法

合格者の選抜方法は以下のとおりです。

募集人員	内容
①70%程度	個人調査書の「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を同等に取り扱う
②15%程度	個人調査書の内容等を重視（評定：学力の比率は各学校で決定）
③15%程度	学力検査の成績を重視（学力：評定の比率は各学校で決定）

選抜はまず、①評定と学力検査の成績で行われ、①で合格にならなかった受検者を対象に、

②・③の選抜を行います。

②・③による選抜の順序については、各学校長の判断で決定されます。

●評定と学力検査の成績の活用について

①「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を同等に取り扱う場合、右図の相関表に当てはめて選抜します。

縦軸-評定の記録(315点満点)を20点ごとに区切りA～Mまでの段階

横軸-学力検査の成績(300点満点)を12点ごとに区切り1～25までの段階

